

最後に、今年4月より待望の大学院が文教育学部にも設置され、これでお茶大も3学部揃って大学院を持つことになり、新制大学に格下げされて以来、ようやく失地回復が成った。お目出度い次第である。これで入れ物はできたから、これからは中味の充実を計らなければならないものと考え、大方の御支援を乞う。

☆ 松 井 勇

本年でお茶大も満17年になります。私も先が短くなったせいか、このところ日のたつのが余りに速く、4月の新学期からあっという間に夏休みになりました。

前期は講義の数も多いので、毎日追いかけるような、併しそれだけ充実した日々を送ってきました。どうやら以前に比べて講義が楽しくなってきたようです。昭和24年以来の気候学は本年からは浅海先生の受持ちになりました。長い間不十分な内容で皆さんに迷惑をかけてきましたが、私自身振返ってみますと、地理の基礎勉強ができて非常に有難かったと思います。

☆ 浅 海 重 夫

I, 担当科目：地質学・気候学・土壌学・自然地理学・独書演習・大学院演習。

昨年度と今年度担当科目の上でかなりの変動があり、今年は上記のようになっている。地質学は赤木先生のあとを継ぎ、教室内の常住の場所も最近第二実験室。ただし地質学は来年度から従来の1年生対象を2年生に改め、層位学的内容を加えるようにするので、今年は休業。気候学は今年度はじめての受持ちで、勉強のやり直しをしながらの講義。独書演習は松井先生がお持ちの頃よりやさしいものしかやらないので、受講学生が1人などということはない。大学院演習では話題のUSDA新土壌分類方式(第7次案)にとりくんでいる。

II, 目下の関心事

- ① 研究について：地形面が土壌の生成環境として一般に具有しかつ表現している総合的性格を追求すること。
- ② 学内のこと：1～2年後に建築を予定されている文教育学部新校舎に、地理学科があてられるスペースと部屋割りについてのプランを練ること。一方大山寮の改築に関連して、いまだに解決点をみいだそうとしない一部の学生と学内の動きに、今日の学生運動の底流がみられる。
- ③ 学会に関して：昨年末に地理学会役員選挙管理委員をやらされてからのくされ縁で、学会の選挙規定の成文化草案委員の1人になり(地理学会にはこれまで役員選挙規約ができていなかった)、関東地区50名、中部地区6名といった評議員の定員数や地区割りの決め方や、また

そもそも地理学会会員には、さまざまの質があるのをどう扱うかといった原則論まであり、当分なやまされそう。

④ その他の仕事：数年来結論に達しえなかった学術用語選定委員会の地理学用語を、今年こそは最終決定すべく、まとめの世話役を買って出た。働いてもらった何人かの卒業生諸君にも間もなく決定版をお送りすることができる。

⑤ その他——学校教育制度について：長男が来年高校という年齢になり、子供と遊ぶだけの無責任な親では、現在の世の中においては子供にかわいそうであるというので、少しはまじめに学校群だとか科目だとか、入試法改定の問題点に関心をもちはじめることにした。しかし検討すればする程改定案には賛成しがたい。

現行法もちろん不可。高校の学区制に対しては、自宅に最も近い学校を受けさせること。試験科目は9科目（中学の全科目）全部とし、平均95点位とれるような問題を出す。それでも差ができるはず。もし全員満点であればアミダで合否をきめる。大学の入試もこの方式がいい。

とにかく誰がみてもわかる理想とはかけはなれた現在の日本の教育制度（有形無形の既成のワク、習慣・惰性……にしばられた）について、いつも何とかならないかとジリジリするばかりで、親は当面自分の子供だけはうまく通りすぎればよいと思ってしまう。何とかならないか

☆ 式 正 英

お茶の水大学に赴任して以来、満7年になる。始めの4、5年の間は、いつになっても水になじまぬ感じだったが、これはどうも講義題目にも関係があったようで、集落地理学のバトンを渡してからは、すっかり本教室に定着してしまった感じである。

学部の講義は今年で、地形学が2回目、地図学演習が5回目、日本地誌が2回目、写真地理学が4回目、一般教育地学が3回目で、いずれも自分の専門に関係の深いものであり、講義題目に不満の持ちようもなく、せいぜい内容の充実に力をいれたいと思っている。

今年から発足した大学院の講義は、学生諸君の要望に従って、R・F・フリントのグレーシャルランド・ブライストン・ジオロジの講義をすることにした。同書はかつて私自身、氷蝕地形の研究をしていたころ頼りにしていた本の改訂版であり、氷蝕山地の仕事から離れて10年にもなるので、今更此の種の勉強が復活できるとは思っていなかっただけに、懐旧の情もあって大変有難いように感じている。

以前には、一般教育地学は、1年間に同じ半年講義を2度やったとのことであるが、今は半年講